

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3790200020
法人名	医療法人社団誠和会
事業所名	グループホームほのぼの
所在地	丸亀市土器町東3丁目621番地 (電話) 0877-25-0025

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年7月10日	評価決定日	平成21年8月17日

【情報提供票より】(21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	9月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	10人	常勤	7人	非常勤 4人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	200円
	または1日当たり		1,500円	

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.9歳	最低	57歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中野外科胃腸科医院	末森歯科医院
---------	-----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、住み慣れた地域で安心して普通に暮らせることと、「一日一回は声を出して笑って頂く」ことをモットーに代表者、管理者、職員は常に笑顔で利用者中心のきめ細やかな支援を実践している。利用者一人ひとりの有する力を踏まえて役割を持ってもらい、楽しみや張り合いのある暮らしになっている。そのため利用者は、家庭的で落ちついた雰囲気の中で自分のペースでゆったりと過ごしている様子がうかがえた。母体法人の医療機関は道を挟んですぐの所にあり、看護師、医師との連絡網も整備されており、利用者や家族等の安心した生活につながっている。今後の活躍が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、理念に基づく運営の部分で改善課題があったが、評価後、代表者、管理者、職員は一丸となってミーティングで話し合い改善に向けて取り組み、日々の支援の実践や評価に活かしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全員がそれぞれに取り組み、管理者がまとめた。評価をすることで自分自身や事業所のケアを振り返ることが出来、更にサービスの質を高めていきたいとの前向きな姿勢がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では、ホームの現状、今後取り組んでいきたいことや評価の報告等をして意見交換がなされ、双方向的な会議となっている。職員は、出された意見や要望等を共有して職員会議で検討し、運営に反映させている。特に会議を活かした体験学習は、事業所を地域の人々に理解をってもらうだけでなく事業所にとっては貴重な情報源となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情箱の設置や家族等の来訪時には、利用者の近況報告をしたり、気軽に意見、苦情、不安に思っていることを出しやすい環境や雰囲気づくりに配慮している。職員は、出された意見、苦情、不安に思っていることを共有して迅速に対応し運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の一員としてコミュニティーの集いや行事に参加をしたり、事業所の多彩な行事に地域の人々を招待したり、ボランティアや保育園児の訪問を受け入れる等、常に地域の人々と交流することに努めている。今後は、事業所を地域に開放したり、豊富な介護経験を活かして認知症ケアの相談窓口や出前講座に行くなどの取り組みに期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で話し合い確認をして「のんびりほがらかいい暮らし」と、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、朝夕の申し送り時に話し合っ実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、コミュニティーの集いや行事には、積極的に参加をしている。また、ボランティアや保育園児の訪問を受け入れたり、ホームの多彩な行事には、家族等と一緒に地域の人々を招待する等、地元と交流を深めることに努めている。	○	今後は、更に事業所や認知症の理解を深めるために、事業所を地域に開放したり、管理者や職員は、認知症ケアの相談窓口や出前講座に行くなどの取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者、管理者、職員は、評価の意義を理解して、前回外部評価の改善課題を全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。今回の自己評価も全員で取り組み管理者がまとめた。評価を活かしてサービスの質の向上に努めたいと前向きである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの現状、今後取り組んでいきたいことや評価の報告等をして意見交換がなされ、双方向的な会議となっている。出された意見や要望等を職員は共有し、職員会議で検討して運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は、市の窓口で質問や相談に行き助言をもらったり、市側からも研修や会議等情報を提供してもらうなどして、市とともにサービスの質の向上に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族等の来訪時には、利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態等、細かく報告をしている。毎月、利用者の写真を載せた「ほのぼの便り」を送付して喜ばれている。また状況に応じて電話等で個別の報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、家族等の来訪時には笑顔で挨拶をし、日頃から人間関係をよくして、話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見、不満、苦情等を管理者、職員は共有してカンファレンスを行い、迅速に対応するよう努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動はなく、利用者は馴染みの管理者や職員による支援を受けている。もし、代わる場合は、認知症介護経験を考慮する等、利用者へのダメージを防ぐ配慮を考えている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、管理者、職員の段階に応じて外部研修に参加をする機会を提供し、資格取得の推進に努めている。参加者は、内部で報告をしたり、文書で全職員が閲覧出来るようにしている。</p>	○	<p>代表者、管理者、職員は内部研修について研修時間帯や学びたいテーマ等を十分話し合い、年間計画の中で研修を位置づけていく取り組みに期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入して情報を得ている。管理者は市内に連絡会があり、研修やネットワークづくりに参加をして、サービスの質の向上に努めている。</p>	○	<p>職員も段階に応じて、他のグループホームと連携を持ち、情報交換、相互研修や学習会等を通じて、同業者とともに質の向上に励んでいく取り組みに期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初に家族等と一緒に見学をしてもらうことから始め、相談事や思いを聞きながら状況を把握して、柔軟な対応をしていくよう工夫している。入居後も状況により家族等に毎日訪問を依頼することもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、畑仕事や昔からの慣わし等を、人生の先輩として利用者から学んだり、時には励ましてもらう等、一緒に過ごしながらか穏やかな生活を支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけて、言葉や表情から汲み取る努力をしたり、家族等や関係者から些細な情報も得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本的に利用者や家族等の参加を得て、意見や希望、要望を聞いて、全職員で意見交換を行い、それぞれの意見やアイデアを活かして、個別の具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回の評価と3カ月毎の見直しを行っているが、関係者の新しい情報や気づき、利用者の状態の変化や要望があれば、迅速に対応出来るよう新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族等の状況により、通院や特別な外出、買物等柔軟に対応している。また、日々の健康状態のチェックを10時と15時に行い、母体の医療機関へファックスで送り、指示を仰ぐ等、状態の変化に即対応出来るよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者や家族等の希望としているが、協力医療機関が近くで迅速な対応が出来るため、納得した上でほとんどの利用者が協力医療機関となっている。事業所は常に連絡を密にして、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に主治医や家族等と話し合い、利用者にとって最善のケアが受けられるよう方針の統一を図り、関係者全員が共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、利用者のプライバシーや気分を損ねるような言葉かけや対応はしていない。記録等個人情報の取り扱いも徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールは持っているが、一人ひとりの生活のリズムを尊重して、見守りながらその人のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けが出来る利用者は、職員と一緒にやっている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、話をしながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低でも週に2回は入浴をしてもらっているが、希望者は毎日でも入浴出来るよう取り組んでいる。入浴を拒む利用者には、言葉かけや対応の工夫をする等、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、一人ひとりの生活歴や趣味を把握して共有しており、得意とする分野で力を発揮してもらったり、お願い出来るような事を頼み、役割、張り合い、気晴らしの支援をして感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の思いや希望を大切に、ドライブ、散歩、買物等短時間でも戸外に出る機会をつくり、心身の活性につなげる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は、鍵をかけることのデメリットを認識しており、日中玄関の鍵はかけず、職員の見守りを徹底している。外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたり一緒に歩く等、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成して防災訓練を年2回行い、避難経路についても利用者と一緒に確認している。地域の防災訓練にも積極的に参加をして、地域の人々と協力体制を深めるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内の栄養士が作成し、栄養バランスに配慮されている。畑で収穫した野菜や行事食等は事業所で考えてつくる。職員は、一人ひとりのおよその栄養摂取量や水分量を記録をして把握しており、時々医師にチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、適度に明るく、清潔で整頓もされ、観葉植物や季節の花が生けられて居心地がよい。また食物を刻む音や匂い等、昼食の準備の雰囲気で五感の刺激が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓側は掃き出しとなっており明るく閉塞感がない。トイレや洗面所を設置してプライバシーの保持や排泄の自立につなげている。また利用者は、それぞれ好みや馴染みの物で自由にレイアウトをして居心地よく過ごせる工夫がなされている。		